

愛媛新聞 平成23年11月28日

東日本大震災被災地への災害派遣体験を語る  
森川建司氏 27日、砥部町文化会館



## 地域住民の自助大切

災害派遣の元自衛官語る 砥部

東日本大震災の被災地「身を守る」と体験に約70日間、自衛官として災害派遣された森川建司氏（愛媛銀行人事教育部付担当部長）が27日、砥部町文化会館で講演。「避難訓練をするだけでも家族と地域の絆が強ま

動に従事した。

森川氏は「遺体を発見したら家族のように扱い、すべての活動で被災者に寄り添った」と述べ、いたみの激しい遺体の収容は隊員の精神的負担も大きく、1週間の帰隊で戦力を回復させたと労苦の一端も明かした。今後の教訓として、被害想定の見直しや救出隊が到着するまでの住民の「自助」を提案した。一方、政府の対応は「会議ばかり立ち上げてくる回り、指揮官がいなかった」と批判。派遣終了後、犠牲者の慰霊と復興祈願のため四国霊場八十八カ所を1カ月かけて歩き遍路したという。

（西山秀和）